

第 96 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

I. 日 時：2022 年 7 月 12 日（火） 10 時 00 分～11 時 30 分

II. 場 所：WEB 会議(Webex による)

III. 出席者：鈴木(三菱重工業)、岩井(東芝 ESS)、飯田(東電 HD)
水谷(東工大)、長谷川(発電技検)、飯島(日溶協)、高内(神戸製鋼)、
野村(北陸電力)、新井(三菱重工業)、後藤(関西電力)

欠 席：幅野(IHI)、佐藤(JERA)

代理出席：なし

オブザーバー：西尾(北陸電力：新任委員候補)

事務局：花井

IV. 配付資料

96-1 溶接分科会委員名簿

96-2 第 100 回火力専門委員会報告(案)

96-3 第 102 回発電設備規格委員会議事次第

96-4 日本機械学会 発電用設備規格の電子配信について

96-5 「発電用火力設備規格 詳細規定(202X 年版)第Ⅵ章／第Ⅶ章」改訂案
の再審議について

96-6 「発電用火力設備規格 詳細規定(202X 年版)第Ⅵ章／第Ⅶ章」改訂案
誤記確認結果リスト

96-7 条項番号／規格番号／規定番号の使い分けについて(案)

96-8 「条項番号／規格番号／規定番号の使い分けについて(案)」への分科会対応(案)

96-9 JSME 火力詳細規定 第Ⅵ章／第Ⅶ章における条項番号／規格番号／規定番号の
使い分けの考え方

V. 議事

1. 分科会委員の承認

【資料 96-1】

野村委員が9月5日に退任予定であることが報告された。また、西尾 宏之氏(北陸電力)を新任委員候補として次回火力専門委員会へ推薦することが出席委員全員の賛成により承認された。

2. 報告事項

(1)火力専門委員会報告

【資料 96-2】

6月10日開催の第100回火力専門委員会の主要項目が報告された。

○火力専門委員会委員、各分科会委員の承認

○第91回溶接分科会(5月26日～6月2日メール審議)の報告

鈴木溶接分科会主査から第91回溶接分科会は、再任委員候補の火力専門委員会への推薦の審議をメールにより行ったことが報告された。

○材料専門委員会報告

6月2日に開催された第54回材料専門委員会の報告があった。

○審議事項

「発電用火力設備規格 詳細規定（202X年度版）第Ⅶ章改訂案の再審議」に関しては委員から、他に同じような誤記は無いか確認する必要性を指摘されたことが報告された。

(2)規格委員会報告

【資料 96-4】

6月22日開催の第102回発電用設備規格委員会の議事のうち、運営及び火力関連事項に関して報告された。

○火力専門委員会(6/10開催)報告

○発電用設備規格の電子閲覧サービスの状況

(3)日本機械学会 発電用設備規格の電子配信について

6月の段階での電子閲覧サービスの契約状況が報告された。また、このサービスの開始に伴い、冊子として紙で出版された規格が欠品となった場合には増刷は行わず、場合によりPDFによる単品の販売となる（販売はJSA）。火力関係ではSTB1-2016 火力設備配管減肉管理技術規格が単品販売開始となったことが報告された。一方、発電用火力設備規格詳細規定の2015年追補に関しても冊子が売り切れ状態にあるが、今後ニーズを見て対応を考えると報告された。

3. 審議事項

(1)2012年版 第Ⅶ章 アーティクルⅣ 表 QW-461.9 に対する誤記指摘を踏まえた、

第Ⅶ章/第Ⅶ章 202X年版改訂案への対応

【資料 96-5,6】

日本機械学会本体側への問い合わせにて、JSME:2012年版に対して『-第Ⅶ章(アーティクルⅣ)68-表 QW461.9の管一開先 5Gの姿勢で認証される、外径 609 mm以下の管が F,H,O ですが、ASMEだと F,V,Oなのですが誤記ではないでしょうか。』と誤記を指摘された。

ASME SectionⅨの各年版の規定を確認の結果、

① JSME:2012年版の参照する ASME:2008A

② JSME:202X年版の参照する ASME:2011A

③ 最新版 ASME:2021

のいずれも「F, V, O」と確認された。

一方 JSME では、JSME:2008において「F, V, O」と規定されている。ところが、JSME:2012年版改訂案のレビュー票では、ASME:2008Aの当該部は「F, H, O」であるとされ、その結果 JSME:2012年版では「F, H, O」となっていることが判明した。特にレビュー表等に理由や経緯は記載されていない。

JSME:2012年版改訂案のレビュー票の当該部の表は ASME:2008A を図等でコピーするのではなく、担当者自身で新たに表として作成し、これを元に JSME:2012年版改訂案を作成している。また、担当者へのヒヤリングでも当該部分を変更したとの認識がなかった。

以上により、転記ミスによる誤記であると考えられる。なお、既に規格委で承認されている JSME:202X年版詳細規定第Ⅶ章の当該部も 2012年版と同様に「F, H, O」の規定となっている。

【今後の対応】

a. 202X 年版原稿の QW-461.9 について

改訂案の当該部の修正を行う。アーティクルⅣ QW-461.9 の修正内容については、前述の調査結果より「誤記の修正」とする。

b. 詳細規定:第Ⅵ章と第Ⅶ章の図表の調査

202X 年版のレビュー表において ASME:2011A の図表を図としてコピーを行うのではなく、担当者自身が JSME や ASME 原文を元に作成や編集を行った可能性のある「表と図」については、QW-461.9 と同様の転記ミスによる誤記発生の可能性が有るため、誤記有無の調査を行う。(対象については既に主査が【資料 96-6】としてリストは作成済み。)

JSME:202X 年版改訂案と ASME:2011A を比較して、差異があればレビュー表に相違の理由が記載されていないければ、誤記かどうかの判断を行い、上記リストに有無の結果を記載(担当者自身が図表を作成し直しているかどうか等の経過については記載しなくとも良い)。判断に迷う点があれば主査に連絡する。各担当者から鈴木主査への提出期限は 7 月 29 日(金)とする。

(2) 「条項番号/規格番号/規定番号の使い分けについて(案)」への対応

(原子力専門委員会からの提案)

【資料 96-7,8,9】

6 月 22 日の規格委員会において、原子力専門委員会側から資料 96-7 に基づき、現状使い分けが曖昧である「規格番号」「規定番号」「条項番号」の用語について、今後(タイミングを見て)使い分けを行う提案が各専門委員会にあり、溶接分科会から火力専門委員会への回答としては「問題なし」としたいとの主査からの提案があり、了承された。

なお、資料 96-7 の文章が分かりにくいいため、溶接分科会が担務する火力用発電設備詳細規定第Ⅵ章/第Ⅶ章、ASME、JIS に関しどのような名称を使用することになるのかを主査が纏めた資料が資料 96-9 となる。例えば、JSME S TA2:2012-2015 は規格番号、発電用火力設備規格詳細規定(非破壊検査、溶接施工法、溶接技量)2012-2015 は規格名称、第Ⅵ章は規定番号、非破壊検査は規定名称となる。アーティクル 1 も規定番号、T-110 や APPENDIX I も規定番号となる。ASME では ASME BPVC.IX-2021 が規格番号、Part QW が規定番号となる。JIS Z 3211:2008 は規格番号である。この結果、材料成分の規格/規定に関しては、ASME/JSME では材料規定、JIS では材料規格との呼び方になる。

この使い分けのルールを適用した場合、発電用火力設備詳細規定第Ⅵ章/Ⅶ章の 202X 年版改訂案において変更しなければならない点を主査が纏めた資料が資料 96-8 となる。但し、火力専門委員会では適用に関しては次回の改定案(現時点で 202X 年版として呼んでいるもの)ではなく、次々回の改訂案からの適用とされる方向で進んでいる。

4. 次回開催予定

分科会開催が必要なときに改めて日程調整を行い、開催する。

以 上